

# 東京都荒川区に臨時出店!

## 川の手荒川まつりに参加しました

4月29日、東京都荒川区で開催された「第20回川の手荒川まつり」に、荒川区との交流自治体の一つとして参加しました。

「川の手荒川まつり」は、毎年4月29日に開催されている荒川区最大のイベントで、毎年数万人が参加する区民まつりです。小野町が参加したのは、姉妹都市などの交流のある自治体による「ふるさと市」で、小野町商工会、小野町物産市協議会、小野町ふるさと暮らし支援センターの協力により、けんちん汁や漬けもの、蒸しパンなどの販売とPRを行いました。会場は、開店前から特産品を買い求める人の波で、休む間がないほどの盛況ぶりでした。

また、今回は第20回の記念事業として、「ふるさと郷土芸能の祭典」が行われ、当町からは、上羽出庭じゃんがら念佛踊保存会のみなさんによる踊りが披露されました。広い会場に鐘と太鼓の音が響くと、会場は大勢の観客で一杯になりました。

今回の参加は、当町にとって初めてのことで、他の参加自治体から学ぶことも多くありました。福島市は、「ゲンゴロウ」や「バケツ稲」、石川町では「堆肥」、秩父市では「タラの木」といった地域の特色を活かした出店内容は、ぜひ次回の参加に活かしたいものです。

途切れることのないお客様の対応に店内は大忙し



上羽出庭じゃんがら念佛踊りの鐘と太鼓の音に、いつしか会場は満席に



このまつりは、早朝から区内を進行する少年プラスバンドで始まり、球場全体に張り巡らされたテントには、区内及び16自治体自慢の産品が並べられ、約6万人の参加者でイベントが盛り上がりました。

このまつりには、小野町も初めて参加させていただき、ふるさと産品の展示即売会のほかに、上羽出庭のじゃんがら念佛踊りが披露されました。展示コーナーは初参加のため、隣の先輩格石川町の半分の面積でしたが、うど、椎茸等の農産品のほかに菜の花会のみなさんが作った草もち、けんちん汁、蒸しパンなどが販売され、下町の方々には大変好評でした。



先崎 武

ふるさと小野町会会長

小野町の「川の手荒川まつり」初参加に思う

ふるさと小野町会  
ふれあい通信

また、屋内に設置された舞台での、じゃんがら念佛踊りは、区民にとっては大変珍しかったようで、保存会のみなさんの熱演に、たくさんの方から大きな拍手がありました。

このように、小野町と荒川区との交流が、回を追うごとに本格化してきたことは、「ふるさと小野町会」の首都圏とふるさと交流の活動が実りつつある証でもあり、大変嬉しいかぎりです。

小野町と荒川区との架け橋は、何となく、小野町の立場に立って協力してくださる戦時中小野町に学童疎開された「あぶくまの会」(代表伊藤実氏)のみなさんが大きな存在です。本年11月には、「あぶくまの会」のご尽力により、すでに区の教育委員会にも認められた尾久西小学校OBの「あぶくまの会」と尾久西小学校の児童のみなさんが「第二次世界大戦中の疎開体験」をテーマに、小野町産の「かぼちゃ」を食べながら語り合う企画を進められております。

小野町は、荒川区友好自治体の16番目ですが、「あぶくまの会」を通じて区民への知名度は、他の友好自治体より先行していることを実感しています。

将来は、荒川区民の台所は小野町産品で賄うよう、また、小野町の町おこしは、荒川区の子供を通じた市民交流から発展させたいと考えております。

会員のみなさんの更なるご協力とふるさと小野町のみなさんの一層のご協力をお願いいたします。